

序

「難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究」班は平成 25 年度まで坪内博仁主任研究者のもと、難治性疾患克服研究事業の一環として行われて来た。平成 26 年度から事業名が難治性疾患政策研究事業に変更となり、これまで行ってきた難治例の病態解明に関する研究が含まれなくなったのを受け、「門脈血行異常症に関する調査研究」班で行っていた門脈血行異常症を新たに加え、大幅に組織を改変した。今年度は 3 年間の研究の初年度に当たる。

本研究班は自己免疫性肝炎(AIH)・原発性胆汁性肝硬変(PBC)・肝内結石症および硬化性胆管炎(PSC)・劇症肝炎(FH)・門脈血行異常症(特発性門脈圧亢進症、バッドキアリ症候群、肝外門脈閉塞症)に関する全国疫学調査を行い、調査結果および科学的根拠に基づいて診断基準および重症度分類、診療ガイドラインの作成および改訂を行う。これらを通じて、難治性肝・胆道疾患の医療水準の向上と医療経済の効率化への貢献を図ることを目的としている。

全国調査に基づく診断基準、治療指針の検証と改訂の実際としては、難治性肝・胆道疾患それぞれについて全国疫学調査を実施し、最新の実態の把握すること、全国調査結果と科学的根拠に基づき診療ガイドラインを検証し改訂すること、現在作成されている診断基準についても最新の実態に基づいてその妥当性を検証し、必要な場合には改訂を行うこと、各疾患の重症度分類について検証・改訂を行うこと、各疾患の急性型、重症型、治療抵抗例、小児例、肝移植例などに対する診療ガイドラインの作成を行っていく。これらを遂行するのに当たり、今年度はAIH、PBC、肝内結石症およびPSC、FH、門脈血行異常症の5つの分科会を立ち上げ活動を行うこととしたが、各分科会ともメンバーの努力により、様々な成果が得られている。

本研究班の成果が、診療ガイドラインなどを通して、広く社会に還元され、わが国の健康福祉の更なる向上に貢献できる事を期待したい。

平成 27 年 4 月

難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究班

研究代表者 **滝川 一**